

阿蘇山の火山活動に関するコメントと統一見解

平成元年5月19日

気象庁

阿蘇山の火山活動に関する火山噴火予知連絡会会長のコメント

阿蘇山では昨年10月から火口底に赤熱部分が現われ、12月、本年4月、5月には火山灰噴出があった。3月下旬から微動の回数が増加し、現在も多い状態が続いている。しかし微動のエネルギーは過去の噴火活動時に比べてかなり小さい。5月8日に阿蘇山測候所で震度Ⅲの地震がある等地震活動がやや活発である。また5月16日には火口縁上200mに火山灰を噴出する等表面活動はかなり活発である。

このように、地下活動、表面活動とも活発な状態にあるので、火山活動に対する注意が必要である。

平成元年10月27日

気象庁

阿蘇山の火山活動に関する火山噴火予知連絡会統一見解

阿蘇山では昨年10月から火口底に赤熱部分が現われ、3月から微動が増加し、5月以降は頻繁に火山灰を噴出するようになり、6月には火口底に891火孔が開いた。このように活動が次第に活発化する中で7月16日に4年ぶりに噴火活動に入り、次第に噴火の頻度を増し、最近ではほぼ連日噴火している。10月上旬には892火孔が開き、22日には両火孔が合体し、噴石や火山灰の噴出が一層活発化して、火口縁を超えて噴石が飛散するようになり、周辺には多量の降灰が続いている。また、9月以降微動の振幅が一層大きくなり、前回の昭和60年の噴火時の微動振幅をはるかに超え、前々回の昭和54年のそれに匹敵している。阿蘇山測候所では活動状況に応じ4月以降24回にわたり臨時火山情報を発表して注意を呼び掛けてきた。

このように地下活動、表面活動とも活発化しているため、今後の火山活動に警戒が必要である。